

「上城小学校の西目イシシハカマ踊り」伝承活動の取組

1 学校名

知名町立上城小学校

2 学年・人数

小学1年生～6年生 全児童（22人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時（場所）：

上城小学校運動場（9月）、運動会前の全体練習（10月）

(2) 発表の日時（場所）：

上城小学校秋季大運動会（10月）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

西目イシシハカマ踊り（にしみいししはかまおどり）

(2) 由来

江戸時代の終わり頃、上城の沖野松盛が代官付人として鹿児島に行ったとき、唄を習い島に持ち帰り、西目地区（上城・下城・新城の3集落）の人々とともに踊りや三味線を加え創り上げたといわれる。当初は、高野家を中心に伝承されていたが、現在は西目地区で保存会を結成し後継者育成を図っている。平成4年に知名町無形民俗文化財に指定され、平成12年から秋季大運動会に全児童・校区民で踊っている。

(3) 構成等

江戸時代に流行した地突歌や祝儀歌の影響を受けている。

歌詞は、姑が嫁に「石の袴を縫ってこい。」と無理難題を持ちかけると嫁は、「浜の真砂の糸をください。」と返すが、最後は「お互いの大事な振り袖を合わせて見事な袴を作りましょう。」と仲良くなるという内容である。

踊り手の人数は決まっておらず、三味線・太鼓の演奏に合わせて笠・紋付き・袴・襷・脚絆に脇差し姿で軽快に踊られる。

5 保存会や地域との連携の具体

保存会の規約では、上城小学校全職員・児童も組織の一員として明記されている。校長・教頭・用務主事も理事として役員会に参加している。毎年、上城小学校・上城幼稚園・上城校区合同秋季大運動会では、全児童・園児・PTA・校区民が参加しイシシハカマ踊りを披露するのが伝統となっている。また、学習発表会や地域の敬老会等での披露も恒例となっており、地域全体で保存伝承に取り組む体制づくりを構築している。

今年度は、知名町生涯学習フェスティバルの舞台発表部門に出演するため、小学5・6年生が保存会の方々と一緒に練習を行っている。保存会の方々と一緒に舞台に立てることは大変貴重な体験になると思われる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

正しい踊りの伝承のために夏休みの職員研修では、保存会の方に踊り方を指導していただいている。また、総合的な学習の時間では、中・高学年とも「受けつごう！えらぶの文化」の中で郷土芸能について扱い、特に3・4年生ではイシシハカマ踊りについて調べ学習を行うようにしている。学習したことについては学習発表会での展示、舞台発表などを行い、その由来や保存伝承の大切さについてより理解を深めるようにしている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



運動会前の練習風景



秋季大運動会での発表



学習発表会での発表



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 地域の方やお父さんたちと一緒に練習から踊るのでとても楽しい。(児童)
- イシシハカマ踊りに、今年も青年団・老人会をはじめ校区の方々がたくさん参加していたので、とてもいい雰囲気だった。(地域)
- イシシハカマ踊りが校区の方々にとって、とても大切な伝統芸能であるということが参加してみてよくわかった。(職員)
- 伝承のためには、職員がきちんと踊り方を研修し、子どもたちと一緒に踊っていくことが大切であり、きちんとした踊り方を伝えていく必要があると感じた。(職員)
- 毎年、子どもの横と一緒に踊るのが楽しみである。児童・保護者・地域が一体となった取り組みは西目地区ならではの感じている。(保護者)